

〔I〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

日本人は <sup>A</sup>ハ<sub>1</sub>ずかしがり屋だという話は、外国人の反応としてよく聞く話である。

でも本当にそうだろうか。それはどうも日本人の本質をとらえていないような気がする。私たちの中にそういう苦手意識や自意識過剰な部分があるのは確かだけれども、それも最初のうちだけのことで、なんだかんだと言ってもすぐに慣れてしまうのが日本人ではないだろうか。

そんな日本人であっても、なかなか慣れないのが「見せること」と「見られること」である。それが最も（1）にわかりやすい形で身近にあるのが「窓」である。

当たり前のことだが倉庫でもなければどこの家にも窓がある。そして当然のごとく窓にはガラスがついているから、家の中から外はしっかり見えるし、もちろん外から中もそれなりに見える。その意味では、窓は「明かり取り」と「監視」を同時に行っている場所である。内と外を仕切ると同時に、内と外をつなぐ役割も果たしている。（2）窓は、<sup>おおげさ</sup>大袈裟に言えば家の内と外をつなぐ「ステージ」でもあり、見せたい気持ちの「<sup>B</sup>演出」の場でもある。だから「窓」のことをどう理解しているかで「見せること」「見られること」の<sup>C</sup>セイジユク度が大きく違ってくる。

外国へ行くと「<sup>D</sup>窓」に対する意識の差を<sup>E</sup>歴然と思ひ知らされることが多い。ヨーロッパではどんな小さな町であっても、家々の窓辺には花が飾られ道行く人の気持ちを<sup>F</sup>和ませてくれる。ささやかな工夫が、町全体をゆとりあるものに見せるし、やさしい人が住んでいるようにも見える。きつと住人によって、家に似合う花の色とか、種類やボリウムなどにも十分な計算がなされている気がする。それが「見られること」の基本だと思う。大事なのは<sup>G</sup>「見せる」側と「見られる」側が、気持ちの良さでバランスがとれていることなのだ。

ドイツへ旅行した時、都市部には感じのいいマンションが多かった。気になったので、どうして感じがいいのか注意深く観察してみた。

「カッコイイなあ、あんなマンションが日本にあつたら住んでみたいなあ」

「でも、何でこんなに日本と違うんだ？」

「アレっ？ そうか。窓が違うんだ。窓がおしゃれだからだ。そうか、なるほどな」

いいなと思って目にしたマンション個々の特徴のほとんどを演出していたのは、実は「窓」だったのである。ドイツ人の「見られる」ことへの意識を感じた瞬間だった。似た印象のマンションが少なかったのは、設計する人もそこに住む人も、窓をいかに個性的に演出するかということに価値を見出しているからだと思つた。欧米では窓辺に何かを置くと、外からこう見えるだろうという「見せること」と「見られること」を自然に想像する習慣が、昔からすでに出

来上がっているのだと思う。インドアとアウトドアは、窓を通してつながっているという意識が当たり前にあるのだ。

それは照明でも同じである。

欧米では、レースの掛かった窓辺にシェイド・ランプを置いた家をよく見かける。夕方から夜にかけての魅惑的な時間に、オレンジ色の明かりが実に幸せそうに映る。外にいる人にまで家庭の温かみが伝わってくる。その幸せ感をつくっているのは、レースのカーテンとシェイド・ランプの組み合わせである。明かりを使って「見せること」をアピールしているのだ。

どんなに質素な家であっても、どんな豪華な家であっても、窓はそこに住む人の気持ちのステージであるべきだと私は思う。それを意識していないと、物置のようになっていて窓のおかげで立派な家も<sup>H</sup> 貧相に見えてしまうのではないだろうか。

さて、日本の住宅が出窓を使いこなしていない現状を、私はいつも何か変だなと思って眺めている。みなさんが住んでいる近所の家の窓を、一度注意して眺めてみてほしい。特に出窓のある家。さて、どうだろう。「フーム、なるほど」と感心するほどの窓や「これは美しい」という窓には、なかなかお目にかかれないことに気づかれると思う。

ひよつとして出窓には、後ろ向きのぬいぐるみか段ボールの箱、もしくはテレビのお尻などが見えなかっただろうか？ ついでに物に押されて、変な具合によじれたレースのカーテンが見えなかっただろうか？

ほとんどの人は家の中が気持ち良ければいいという内側優先の発想しかないから、外から窓がどう見えるかなんてことは、ほとんど意識していないのではないだろうか。

窓は光が入ってくるただの「明るい壁」みたいなものでしかないから、「見られること」など考えたこともないだろうし、ましてや「見せる」などと言われてもまるでチンプンカンプンで理解できないかもしれない。つまりそれは窓は仕切りにはなっていない、決して「内と外」をつないではいないということである。

ひよつとしたら昔から日本人の生活の中では、窓を通して「見る」という概念はあっても、「見られる」という概念は生まれなかったのかもしれない。現代の家とは違う昔の窓の少ない日本家屋では、窓が小さな「明かり取り」の位置付け以上に育つのが遅れたからではないか。それなのに建物の洋風化が急速に進んだことで、意識の面ではまだ追いついていないのかもしれない。(3) 構えは洋風になったというのに「見られること」に関しては、まだ昔のままだと言いうこともできるのではないか。

日本人は外国からさまざまなことを学んだ。気候、風土、習慣などの違いを越えて、あるものはそのまま、あるものは日本流に置き換えられて、いいものはいいいという発想でいろいろなものを受け入れてきた。

そんなものの一つに日本でもそれなりのブームになり、文化としても定着する<sup>K</sup>兆しのあるのがガーデンングである。<sup>L</sup>日本人が今まで控えめだった「見せたい」気持ちが、花や庭を通して小さな広がりを持ち始めてきたということなのだろう。花好き以外にもそんな気持ちの人が増えるのは、実にいいことだと思う。

いつもは窓など意識しない人が、なぜかクリスマスシーズンになると突然イルミネーションを灯したりして、この時とばかりに飾り付ける人もいる。(4)。その時だけ「外」に対する意識が出てきて、自分の飾ったものを見てほしいという気持ちが強くなるのだと思う。

実は、そういう気持ちこそが大事なのである。そんなふう<sup>M</sup>に「メバ<sup>M</sup>えてきた「見せること」や「見られること」への意識を、普段の生活でも持ち続けられるよう育てられないものだろうか。

(坂川栄治『光の家具』照明』より)

問一 傍線A・C・Mのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線F・H・Kの読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄(1)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 間接的    イ 具体的    ウ 論理的    エ 普遍的    オ 合理的

問四 空欄(2)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア しかし    イ なぜなら    ウ つまり    エ たとえば    オ ただし

問五 傍線B「演出」と明らかに異なる意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 仕立て    イ アレンジ    ウ 脚色    エ 変化    オ 装飾

問六 傍線Dに「窓」に対する意識の差」とあるが、ヨーロッパでは「窓」についてのどのような意識があるのか、文章中から二十九字の語句を探し、はじめの五字を記入しなさい。

問七 傍線E「歴然と」と明らかに異なる意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 正確に    イ 明白に    ウ まぎれもなく    エ 明確に    オ はっきりと

問八 傍線G「『見える』側と『見られる』側が、気持ちの良さでバランスがとれている」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 他人に見せようとする気持ちをよく感じ、また他人も気持ちよくそれを見ていること。

イ 他人と自分とが互いに工夫をし合い、それぞれ気持ちよく見せ合っていること。

ウ 他人に見せようとすることを楽しみ、他人から見られることを心地よく感じていること。

エ 他人も自分も互いに見られている関係であることを心地よく感じていること。

オ 他人の工夫を気持ちよく見て、自分も他人に心地よく見てもらおうと工夫すること。

問九 傍線Iに「日本の住宅が出窓を使いこなしていない現状を、私はいつも何か変だな」と思っている。筆者はなぜいつも「何か変だな」と思うのか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 出窓から家の内側の生活がのぞけてしまうのに、日本には家の汚い部分が隠れていない家が多いから。

イ 家には出窓以外に物を収納する場所があるはずなのに、物置のようにさまざまに物が出窓に置かれているから。

ウ たとえ豪華な家であっても、出窓を物置のようにすることで貧相に見えてしまう理由がわからないから。

エ 質素な家であるのが豪華な家であるのが、家の立派さに関係なく、日本には立派な出窓がないから。

オ 出窓はその家に住む人の気持ちを表現するせつかくの場であるのに、日本ではいいかげんな扱いになっているから。

問十 傍線J「明るい壁」とは具体的に何か、文章中から**五**字の語句を探し、記入しなさい。

問十一 空欄（3）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア たとえば      イ また      ウ にもかかわらず      エ だから      オ さらに

問十二 傍線Lに「日本人が今まで控えめだった『見せたい』気持ち」とあるが、なぜ日本人は今まで私的領域を「見せたい」気持ちで控えめだったのか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 他者と対する時の日本人には自意識過剰な部分があり、いつまでたっても対人関係に慣れることがないから。

イ 日本人は、日常生活において人を「見る」という概念はもっていたが、人から「見られる」という概念はもっていなかったから。

ウ もともと日本家屋には窓が少なく、外から光を入れる以外の役割ではあまり使われなかったから。

エ 日本人には、気候、風土、習慣などの違いを越えて外国からさまざまなものを受け入れる気質があるから。

オ 今までの日本には、ゲーディングのようにブームになり定着するような「見せる」ための文化がなかったから。

問十三 空欄（ 4 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しな

さい。

ア まったく調子のいいことである

イ こういった流行も一過性のものだろう

ウ それはそれでほほえましいことである

エ これはそれほどのぞましいことではない

オ 正直、見る側は飽き飽きしている



〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

外国の書物を読んでいると驚かされることがある。最初のページに、わが師であり、わが同僚であり、わが友人である誰それに捧ぐ、という文句を見つけるからである。日本の書物でこんな文句を見つけることはまずないだろう。形式的には同僚となることもあるが、実質的には同僚とはなりえないし、ましてや友人とはなりえない。先生はいつまでも先生であって、日本人は、かつての先生と教え子の関係をシヨウガイ維持しようとする。まさに一人前になっても、母親から見れば子どもであるように、自然発生的な関係と同様に、社会的関係も不変のもの、の、としようとしているかのようである。これが良いか悪いかは別として、日本の文化はこれを美德としてきたし、日本人の生き方であった。

日本人は、こうした関係を終生維持しようとする反面、交渉の相手が代わると突然人が変わってしまったように行動のパターンが変化する。上役にはBジユウジュンだった役人も、民間人には居丈高になる。自分を指す表現も、私になったり、俺になったり、僕になったり、ワシになったりする。相手も、あなたになったり、おまえになったり、君になったり、あなたになったりする。このように人称の呼称が豊富な言語はまれであり、一人称は、いつでもI、Ich、Jeを一貫して用いている西洋と比較してみると、日本人には、真の意味で自我はないのではないかと主張されたりする(『経験と思想』森有正)。そう言えば、日本語では、これほど一人称の用語が沢山あり、分化しているのに、不思議なことに日常の会話では、主語は省略されることが多い。なるほど、日本人は控え目で自己主張をしない、それは主張すべき自己を持っていないからだと、C合点が行くような気もする。

(1)、主語が省略されるのは、話し言葉だけではなく、書き言葉においても起きる。会話では、話し手―聞き手の構造が設定されているから、主語の省略は、語られた文の理解の妨げとはそれほどならない。といっても、第三者について語る時には、その第三者が主語となる文では、第三者が省略されることも多く、少なからぬ混乱を引き起こすかもしれない。さらに書き言葉となると、不特定の読者に向けて書かれたものであって、話し手―聞き手の構造と同じほどには、書き手―読み手の構造は明確ではない。主語の省略は、文の理解に重大な障害となる。(2)、日本語では、主語を暗々裡に指示する敬語法が、まれに見るほど発達しているのである。

敬語法とは、対人関係、役割関係を表現する言語手段である。そして、主語は、文の表面には現れず、敬語の対象としてEほのめかされるだけであるから、日本人は、西洋人のような個人とか自我という統一体を形成しておらず、「私」はただ役割関係の中に登場するだけである。単なる役割ではない、本当の自分、自我がない、というのである。日本人は、いろいろな仮面

(ペルソナ)をもつてはいるが、それを統一した自我・人格(パーソナリティ)をもっていない。まさに君子は<sup>F</sup>豹変して、君子はどこかに消えてしまった。日本人は、役割行動の根底に一貫したものが流れておらず、バックボーンの欠けた<sup>G</sup>日和見主義にすぎない、というのである。

<sup>H</sup>日本人には自我がない、という提言には文句はない。というのも、それでは、西洋人には自我があるのか、一体自我とはどういうものなのか、という問いを反対に提出することができるからである。だが、提言の根拠として持ち出された言葉使用の問題は、大いに疑問がある。極端に言えば、相手によって呼称を変えず、いつでも私と言えば、その人は「自我」が確立していると言えるのであろうか。

自我がないと主張する論拠の一つは、日本人が相手に応じて自分の呼称を変えらるということである。日本人は「私」になろうとせず、いつでも相手の相手になろうとする、というのである。相手が赤ん坊ならば父親になろうとするが、生徒なら先生になろうとする。いつも相手によって自己規定するから、いわば日本人の自我は、一次的なものではなく、他者を通してつくられた二次的なものに過ぎないと言われる。しかし、ロール・プレイングなどでは、演者が相手との関係に先立って自分の役割を規定しようとすると、彼には自我があるとは解釈されず、自分勝手、エゴイストと見なされる。それならば、自我があることはエゴイストに近い概念なのか、(3)に振舞うことなのか。自発性とは、そうしたもののなか。

しかし、森有正の議論には「論点先取の誤り」がある。彼が議論の素材として最初に提出する赤ん坊ならばとか、生徒とか、と記述されるものはいつから存在していたのであろうか。赤ん坊が、赤ん坊として存在しうるためには、たとえば、父親が存在しなければならぬ。父親がいなければ、赤ん坊は赤ん坊ではなく単なる生き物にすぎないし、物体にすぎないかもしれない。父親が出現するから、親子という関係の中に赤ん坊として登場できるのである。非情な親であつたら、夜中に泣き叫ぶ赤ん坊は、自分の安眠を妨害する不快な騒音発声(生)装置にしか見えず、みずからも父親として登場しない。騒音の発声(生)源である幼児の口をふさぐことになる。(4)、相手の相手になろうとするという森の議論は、最初に対象、客観、外界があつて、それから自我、主観、内界がつけられるという経験論的な解釈にはかならない。同様に、自分が相手を規定するというのは、まさに反対である。極端な理性論であらう。父親となることは、自分と相手の役割を(5)に創造することである。だから、相手を見ることは自分を見ることにほかならない。

このように考えると、相手の相手になるから自我がないのではなく、父親―赤ん坊の役割構造の中で父親として行動する時、父親の役割をうまく演じられないから、また「放棄」してしまいうから自我(主体性)がないのであつて、役割行動に終始するからではない。下手な演技をするから、いわゆる自我が曖昧になるといのが実情であらう。相手の相手になろうとするのは、

父親の役割を放棄することにつながる。赤ん坊を叱らなければならない時でも、<sup>K</sup>ドリヨウの広いところを見せようと叱らないならば、すでに父親失格である。われわれは、いろいろな役割を演ずるからエリクソンの言う役割混乱 (role-confusion) が起きるのではなく、既製の言葉、概念によって赤ん坊を理解し、<sup>L</sup>抽象的な父親になろうとするから、ヘレーネ・ドイチュの言うかのような人格 (as if personality) よろしく自我の同一性が揺らぐのである。われわれは、役割行動の多様性の中に自我 (あるとすれば) の可能性と同一性、統一性を求めるのである。

(川幡政道『見捨てられる不安』より)

問一 傍線A・B・Kのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線D・G・Jの読みをひらがなで書きなさい。

問三 傍線C「合点が行く」と明らかに異なる意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 了解する    イ 腑ふに落ちる    ウ 納得する    エ 得心する    オ 容認する

問四 空欄(1)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア ところで    イ なぜなら    ウ ただし    エ それにもかかわらず

オ だから

問五 空欄(2)に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア そのうえ    イ また    ウ だから    エ さて    オ しかし

問六 傍線E「ほのめか」(す)と明らかに異なる意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 言外に示す    イ 当てつける    ウ 匂わせる    エ 暗示する

オ 示唆する

問七 傍線F「豹変」と同じ意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 動揺    イ 反発    ウ 失望    エ 急転    オ 放浪



問八 傍線Hに「日本人には自我がない、という提言には文句はない」とあるが、筆者がこのようなに言うのはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 西洋人が自我をもつのは違って、日本人は確立した自我をもっていないと考えているから。

イ 日本語使用のあり方に表れているように、日本人には自我があやふやなものだと考えているから。

ウ 西洋人が自我をもつのは異なる仕方、日本人は自我を保ってきたと考えているから。

エ 日本人についても西洋人についても、自我は明確に定まったものではないと考えているから。

オ 日本人にも西洋人にも自我は存在するが、議論のために提言することは認めたいと考えているから。

問九 空欄（3）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 言語道断    イ 外柔内剛    ウ 傍若無人    エ 意志薄弱    オ 前代未聞

問十 傍線Iに「論点先取の誤り」とあるが、どういうことが「誤り」だというのは、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 相手との関係性において定まる役割によって自我が成り立つと想定していること。

イ 日本人の自己認識よりも言語使用を根拠に自我の確立を疑問視していること。

ウ はじめから自己を規定するための確たる相手がいることを前提としていること。

エ 父親と赤ん坊という既存の概念を用いて自我というものを議論していること。

オ まず確かな自我があつてそれがどのように振舞うのかを考察していること。

問十一 空欄（4）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア しかも    イ だから    ウ ところが    エ なぜなら    オ なお

問十二 空欄（5）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 一次的    イ 両義的    ウ 客観的    エ 理性的    オ 相対的

問十三 傍線L「抽象的な父親になろうとする」とはどういうことか、最も適するものをア

～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 父親―赤ん坊の役割構造の中で、多様な役割行動をとろうとすること。
- イ 父親―赤ん坊の役割構造にのっとって、赤ん坊との関係を考えること。
- ウ 赤ん坊に対して、既存の父親像にかなった役割を演じようとする事。
- エ 赤ん坊に対して、父親としての役割をうまく演じきること。
- オ 赤ん坊に対して、父親として具体的な行動を一切とろうとしないこと。

国語

解答用紙一

[I]

問十三	問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
											F	A
											ませ	ずかし
											H	C
											K	M
											し	え

受験番号	
------	--



国語

解答用紙二

〔Ⅱ〕

問十三	問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
											D	A
											げ	
											G	B
											J	K

受験番号		★
------	--	---